

香港案内

研究交流課長 浅見加奈子

唐突ですが、皆様香港に行ったことはありますか？女性ならかなりの割合で「行ったことがある」の欄に をつけられるのではないのでしょうか。香港は多くの日本人にとって「ショッピング、観光、美食」でお馴染みの街となっていると思います。

私は今年の夏まで3年間香港総領事館に勤務しておりました。97年に香港は英国から中国に返還されましたが、一国二制度が導入されていることもあり、言語はいまでも英語と広東語（北京語とは別。香港人は特別に勉強しない限り北京語は理解できません）と英語教育を受けている日本人には親しみやすいところです。

さて、私が香港に住んでみて、ここは面白いな、日本とは違うな、と感じたことは、香港の「二面性」でした。白黒はっきりしている、とも言えるかもしれませんが。灰色がないように感じられるのです。

香港で有名な夜景の名所、ヴィクトリア・ピークからはまさに摩天楼が見下ろせます。一流企業が入っている高層ビルは50階建てでも珍しくなく、エレベーターも総ガラス張りや大理石張りで、霞ヶ関村から来た私などは最初エレベーターに乗ることにすら緊張していました。しかし、普通の町中にでると、老朽化してボロボロになったビル（もちろんエレベーターなんてものはありません）も数多くみかけます。家についても、ヴィクトリア・ピークの上にあるような一軒家形式の邸宅（もちろん大富豪や政府高官のお住まいです）は香港でも数百件しかありませんが、「え、ここに8人住んでいるの！」というような小さなアパートも数多くあります。レストランも同じで、一皿数万円するようなフカヒレスープを出す高級店がある一方で、1杯10香港ドル（150円位）の

ワン湯麵屋に行列が出来ます。海底トンネル（九龍半島と香港島を結ぶトンネルは新旧で値段が違う）でさえ、料金の高いトンネルは渋滞知らずで、料金の低いトンネルは常に大渋滞。最新式の大型クルーザーがヨット・ハーバーに数多く係留されている一方、いまでも古い小型漁船に暮らしている人もいます。

まさに、弱肉強食の究極の姿。金持ちとそれ以外で中間なし。香港はアジアで一番貧富の差が激しく、かつその格差が近年拡大している、という調査結果もありました。香港には独占禁止法に当たるものもなく、市場が小さいこともあって域内の産業は財閥系企業による寡占状態が多くなっています。所得税も15%程度と安く消費税もない。その代わり教育や社会保障が弱い。しかし、日夜成功した人の姿（某社長の年間所得は数十億円！なんていう新聞記事もよくみかけます）を見ることが出来る（見たくなくても見えますね、あの狭さですから）ので、「いつかは私も」という活気が溢れている。いまや成長著しい中国本土で一旗揚げようという人々も増えているように思います。

一億総中流といわれた日本から行った私には、この二面性が面白いと感じられる反面、その残酷さに正直恐怖感も感じました。成功の裏にはまさに激しい競争があり、一握りの成功者に大多数のそれ以外。あまりの競争の激しさに働き盛りの頃はいいにしても、高齢になると香港を出て物価の安い中国本土（広東省なら広東語が通じます）に移り住む人も多いといえます。香港は住んでみると好き嫌いが別れる街ではありますが、エネルギーで「何かやってやろう」というパワーを常に感じる街であることも事実です。香港に行かれるチャンスがあれば、街をこんな観点から眺めてみるのもちょっと面白いかもしれません。